

## 5/19カンパニーデラシネラ『どこまでも世界』2021 試演会レポート!

レポート：レイチェル／豊岡市在住

まばたきしている暇がないくらいのスピード感！なのに、とてもなめらかな動き…  
カンパニーデラシネラ『どこまでも世界』を観た最初の感想。

全編を通してスルスルと彼らの世界に引き込まれていく。

この不思議な感覚はなんだろう。効果音以外に台詞はないのに、彼らの言葉が、  
そしてさんざめきが聞こえた。

風や雨をも感じた。

レストランでの食事場面では、見事な  
までにテーブル上のお皿がすり替え  
られ、ソファでの入れ替わりでは  
4名全員の呼吸がピッタリとあい、一  
糸乱れぬパフォーマンス。

頭のとっぺんから足の指先までが美し  
くパントマイムしていた。また観たい！



©igaki photo studio

### スタッフの イラスト日記 コーナー

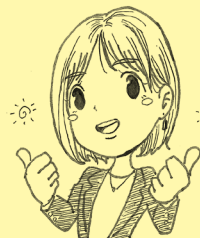


イラスト  
スタッフ Y

春からアートセンター  
の芸術監督になった  
市原佐都子です！  
よろしくお願いします。

## 7月のイベント

※詳細は裏面をご覧ください

1

① 7/4 (日) 14:00~16:30

会場／豊岡市民プラザ

② 7/5 (月) 18:30~21:00

会場／城崎国際アートセンター

料金／参加無料(要申込) 定員／各回10名程度 ◎演劇経験不問  
(※先着順！)

いちばらさとし  
ノイマルクト劇場&市原佐都子/劇団Q  
『MADAMA BUTTERFLY(蝶々夫人)』リーディング会



2

① 8/1 (日) 14:00~[A]

会場／城崎国際アートセンター

② 8/2 (月) 18:30~[B]

会場／城崎国際アートセンター

料金／観覧無料(要申込)

※詳細は裏面へ

たにけんいち

谷賢一／DULL-COLORED POP  
『丘の上、ねむのき産婦人科』試演会



託児を希望される方は、電話で KIAC までお申し込みください。  
保育士さんの手配の都合上、申込はイベント開催日の 1 週間前までです。  
(開催日が土日の場合は金曜日締切)

託児サービス

### 掲載イベントに関する 申込・問合せ

城崎国際アートセンター [電話受付 9 ~ 17 時 / 火休]

TEL.0796-32-3888 FAX.0796-32-3898

①イベント名 ②参加日程 ③氏名 ④電話番号をお伝えください

観る  
聴く  
参加する

城崎国際アートセンター(KIAC/きあつく)は、演劇やダンスなどの  
アーティストが滞在しながら作品をつくる場所です。  
滞在アーティストは、市民のみなさんが無料で観たり参加したりできる  
「地域交流プログラム」をおこないます。



## 7月のイベントかみくだき

1

### いちはらさとこ ノイマルクト劇場&市原佐都子/劇団Q 『MADAMA BUTTERFLY(蝶々夫人)』リーディング会

①7月4日(日) 14:00~16:30 ②7月5日(月) 18:30~21:00

どんな人?



© 佐藤瑞季

市原佐都子  
／劇団Q

城崎国際アートセンターの芸術監督をつとめる市原佐都子さんは、劇作家・演出家・小説家と多彩に活動中。

演劇の印象が強い市原さんですが、意外にも舞台との出会いはこどもの頃に習っていたバレエで、好きだった漫画はセーラームーンだそう!

女性の視点から、性についてや、人間の生理感覚への違和感を、独自の言語センスと身体感覚でとらえる作品は、衝撃を持ってむかえられています。

何をするの?

今回は、プッチーニのオペラ『MADAMA BUTTERFLY (蝶々夫人)』を原案にした新作の稽古をします。「蝶々夫人」といえば、舞台は日本、長崎。

100年ほど前に書かれた物語ですが、「蝶々夫人」に描かれる、白人男性をなんとなくカッコいいとする考えや、日本人女性なら黒髪…などの偏見は、今は全くないと言えるでしょうか。例えばそんなふうに、西洋／男性からみた日本／女性という先入観を問い直す新作です!

滞在中、完成した台本を、みんなで声に出して読んでみる会を行います。

# 劇作家・演出家・小説家

# 舞台との出会い

# セーラームーン

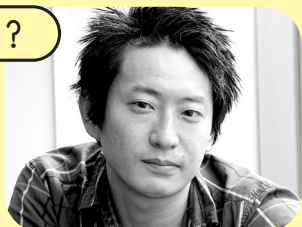
2

### たにけんいち 谷賢一／DULL-COLORED POP 『丘の上、ねむのき産婦人科』試演会

①8月1日(日) 14:00~ [A] 女性キャストが女性役、男性キャストが男性役を演じます。

②8月2日(月) 18:30~ [B] 男性キャストが女性役、女性キャストが男性役を演じます。

どんな人?



谷賢一

作家・演出家・翻訳家。福島県生まれの、千葉県育ち。谷さんといえば、福島県と原発の歴史を描いた『福島三部作』で演劇界の芥川賞といわれる「岸田國士戯曲賞」を受賞されている注目の作家さん。

ポップでロックな創作スタイルで、古典悲劇からミュージカルまで幅広い作品を手掛けておられます。

何をするの?



『福島三部作』第一部『1961年：夜に昇る太陽』  
©bozzo

駅の北側、商店街を抜けた先、丘の上にある「ねむのきさん」は、昭和のはじめ、古くから続く産婦人科で、私も私の母も祖母もここで産み、生まれたらしい。…

物語の舞台は、架空の地方都市。妊娠や出産には、さまざまな問題が隣あわせにあります。少子化・晩婚化・ジェンダーギャップ・若者の貧困・不妊治療・中絶・ひとり親など…数十人への取材をもとに描かれる新作。今回斬新な試みとして、「自分と異なる性／生を想像する」ため、8月2日の試演会は、男女の役を入れ替えて上演します!

# 岸田國士戯曲賞

# ポップでロック

# 古典悲劇からミュージカルまで

裏面紹介文：ハシモト

これからの  
予定

8月中旬予定  
8月末予定

○劇団あはひ『Letters (仮)』成果発表 8月中旬予定

○目黒大路／糸びず大黒座『地獄極楽 妖怪ショー!!』オープンスタジオ